蘭学事始再版序

福沢諭吉

青空文庫

蘭学事始の原稿は素より杉田家に存して一本を秘蔵せしに、安政二年江戸大地震の火災に焼失して、医友又門下生の中にも曾て之を謄写せし者なく、千載の遺憾として唯不幸を嘆ずるのみなりしが、旧幕府の末年に神田孝平氏が府下本郷通を散歩の折節、偶ま聖堂裏の露店に最と古びたる写本のあるを認め、手に取りて見れば紛れもなき蘭学事始にして、然かも※斎先生の親筆に係り、門人大槻磐水先生に贈りたるものなり。神田氏の雀躍想見る可し。直に事の次第を学友同志輩に語り、孰れも皆先を争ふて写取り、俄に数本の蘭学事始を得たる其趣は、既に世に亡き人と思ひし朋友の再生に遭ふたるが如し。而して之を再生せしめたる恩人は神田氏にして、我輩の共に永く忘れざる所なり。書中の紀事は字々皆辛苦、就中明和八年三月五日蘭化先生の宅にて始めてターフルアナトミアの書に打向ひ、艫舵なき船の大海に乗出せしが如く茫洋として寄る可きなく唯あきれにあきれて居たる迄なり云々以下の一段に至りては、我々は之を読む毎に、先人の苦心を察し、其剛勇に驚き、其誠意誠心に感じ、感極りて泣かざるはなし。迂老は故箕作秋坪氏と交際最も深かりしが、当時彼の写本を得て両人対坐、毎度繰返しては之を読み、右の一段に至れば共に感涙に※びて無言に終るの常なりき。斯くて一両年を過ぎ、世は王政維新の変乱と為り、都下の学友輩も諸方に散じて、東西南北唯兵馬の沙汰を聞くのみ。此時に当り迂老は江戸に住居し、独り目下の有様を見聞して、我国文運の命脈甚だ覚束なしと思ひ、明治元年のことなり、月日は忘れたり、小川町なる杉田廉卿氏の宅を訪ひ、天

下騒然復た文を語る者なし、然るに君が家の蘭学事始は我輩学者社会の宝書なり、今是を失ふては後世子孫我洋学の歴史を知るに由なく、且は先人の千辛万苦して我々後進の為めにせられたる其偉業鴻恩を空ふするものなり、就ては方今の騒乱中に此書を出版したりとて見る者もなかる可しと雖も、一度び木に上するときは保存の道これより安全なるなし、実に心細き時勢なれば売弘などは出来ざるものと覚悟して出版然る可し、其費用の如きは迂老が斯道の為め又先人へ報恩の為めに資く可しとて、持参したる数円金を出し懇談に及びしかば、主人も迂老の志を悦びいよ〳〵上木と決し、其頃は固より活版とてはなく、先づ草稿を校正して版下に廻はし、桜の版に彫刻することなれば、彼れ是れ手間取り、発兌は翌明治二年正月のことなりき。即ち今の版本蘭学事始上下二巻、是れなり。爾後不幸にして廉卿氏は世を早ふせられ、版本も世間に多からず。然るに今回は全国医学会に於て或は其再版ある可しと云ふ。迂老の喜び喩へんに物なし。数千部の再版書を普く天下の有志者に分布するは即ち蘭学事始の万歳にして、啻に先人の功労を日本国中に発揚するのみならず、東洋の一国たる大日本の百数十年前、学者社会には既に西洋文明の胚胎するものあり、今日の進歩偶然に非ずとの事実を、世界万国の人に示すに足る可し。内外の士人この書を読で単に医学上の一小紀事とする勿れ。明治二十三年四月一日、後学福沢諭吉謹誌。

青空文庫情報

底本：「蘭学事始」岩波文庫、岩波書店
1959（昭和34）年3月25日第1刷発行
1982（昭和57）年3月16日改版第28刷発行
初出：「蘭學事始」林茂香
1890（明治23）年4月8日出版
※表題は底本掲載時に追加されたもので、初出時に表題はありません。
※新仮名によると思われるルビの拗音、促音は、小書きしました。
入力：田中哲郎
校正：hitsuji
2019年10月28日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

蘭学事始再版序

福沢諭吉

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/